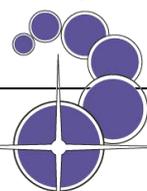


5

CREATIVE

学 年 だ よ り

第10号 令和2年5月21日



県立村上中等教育学校（15期生）

●今日から、ようやく授業開始！

Keep Distance



CAREを大切にしていこう！

ようやく学校が再開する。
まだフルな日程ではないけれど、
5年生としての再スタートだ。

確かに着地点が見えない不安はある。
まずは、皆さんの心と体を
大切にしよう。

手洗いや自分へのご褒美などなど、
自分の体と心に、これまで同様に
CARE（いたわり）をプラスして
いこう！ きちんと活動できるように
生活リズムも整えよう。

あたりまえだと思っていた学校生活。
友だちや先輩、それに保護者や
先生たちがそばにいてくれること。
時間が共有できる喜びを、これからも
かみしめていこう。
だから、周囲の人たちに対しても、
CARE（思いやり）をプラス
することを忘れないようにしよう！

そうそう、Last but not least、学習も皆さんの大切な日常だ。
だけど、以前のような授業に戻るには、
あとしばらくの時間がかかりそうだ。
学習効果を高めるためにも、君たちも、先生方も
以前以上に工夫が必要になってくる。
どんなに環境が変わっても、自分を高めようとする姿勢は
忘れないでほしいと思う。
だから、CARE（努力や工夫）を
忘れずプラスしていこう！

新しい生活様式。何も恐れる必要はない。
CARE（いたわり、思いやり、努力や
工夫）を大切にしていけば、
きっと大丈夫。一歩、一歩を歩んでいこう！（水戸）

Welcome Back!

学校再開！ おかえりなさい



ためしてみよう!



付箋を使って、立案・実施・修正をする

5学年では、毎週、「平日の学習計画の立案と修正」活動を行っていますが、先日、テレビで手軽に同様の活動ができる方法が紹介されていました(『逆転人生』2020年5月11日NHKにて放送分)。

偏差値 35 から東大に合格した西岡孝誠さんの方法ですが、「立案」「実施」「修正」のサイクルを見事に、しかも気軽に「見える化」される方法だと思います。学習にとどまらず、将来、仕事をする上でも役立ちそうです。私も試してみます。(水戸)

| Do | Doing | Done |
|-----------------|-------------------|-----------|
| | | |
| やるべきことを付箋にまとめる。 | 取り組み中なら。移動。順番も調整。 | 終わったらここに! |

(放送内容をもとに水戸が作図)

アドバイス 自分の特性を見極めよう! そして、どの程度まで知識を暗記する必要があるかを確認しよう

質問1 例えば、英語の「システム英単語」の「ミニマルフレーズ」が量が多く、覚えられません。

回答1 最近の研究で、人が知識などを自分のものとする際、人によって、向いている方法やそうでないものがあることがわかっています。つまり自分にあった学習方法を見つけることが大切だと言われています。

皆さんの「認知特性」は何でしょうか。「聴覚優位」でしょうか? 「視覚優位」でしょうか? (実際はもっと多岐にわたります)

「聴覚優位?」 → それに見合った方法や
 「視覚優位?」 → 組合せを考える

例えば、もしあなたが、人の顔をすぐに覚えられたり、道がすぐに覚えられるのであれば「視覚優位」であり、学習項目を図で表したり、まとめたり、視覚に訴える方法に重きをおいた方法が効果的だと言われています。一方、人が以前話していた内容を覚えていたり、歌詞を覚えたりするのが得意な人は「聴覚優位」です。こうした人は音声を使った学習法がよいとされています。

しかし、特に語学は「読む、聞く、書く、話す」の4技能を高めることが必要ですので、この4つを意識しながらも、自分の認知特性を生かす方法を試してみてください。

分散
登校

質問カード フィードバック

記憶編

次に、(特に英語の語彙についてですが)「受信語彙」と「発信語彙」について意識してみましょう。

「受信語彙」＝読んだり、聞いたりしてわかる語彙

「発信語彙」＝書いたり、話したりできる語彙

当然、受信語彙の段階を経過してから、発信語彙へと転移します。そのため、数の観点でいうと、受信語彙の量のほうが圧倒的に多くなります。どの程度まで暗記をする必要があるのか、暗記の深さを、考えてから暗記しましょう。

ここで入試について考えてみます。例えば長文を読む際、フラストレーションがたまらないようにしないといけません。それに瞬時に意味がわかる必要があります。なので、「量が多すぎる!」と言う人は、単語だけをみてパッと意味が浮かぶように練習する方法がよいかもしれません。

しかしその一方で、例えば「数学の乱数表を暗記せよ」と言われてもなかなか困難です。次回以降、紹介しますが、人は単独でものごとを暗記するのが弱く、別の刺激と組み合わせることで暗記しやすくなると言われています。ですから、むしろフレーズのほうが覚えやすい人も当然います。先に紹介した認知特性を考え、例えば、視覚優位の人は、イラストを単語帳に描いてから、発信語彙を目指し、単語を書きながら音読するなどの方法がよいかもしれません。

ボーダレス時代を生きる皆さんの将来像をイメージし、「発信語彙」を増やしてほしく、私はシステム英単語を採用しましたが、「ミニマルフレーズ」をおさえることで、発信語彙を充実させるだけではなく、実は「受信語彙」の理解の処理速度もはやくなることが期待されます。

各自によって方法がかわりますので、いろいろ自分でためしてみてください。今後、学年だよりでも、いろいろな学習法を紹介できればと思っています。(水戸)